

UXプロジェクト「基本計画・実施計画」の概要

～ イノベーションの種を熊本から ～

1. 背景と目指す姿

① 50年、100年後を見据えた新たな産業の柱の必要性

- ・ 県経済の持続的発展のため、半導体、自動車関連に次ぐ、県内産業の新たな柱が必要

② ライフサイエンス分野における熊本県の強み

- ・ 水資源など豊富な天然資源、全国トップクラスの農業生産
- ・ 理工系の大学等から多数輩出される産業人材
- ・ 創薬の研究等医療・薬学分野での高度な研究
- ・ 医療、健康、食品等の分野のベンチャー企業の活躍

③ 阿蘇くまもと空港周辺地域における拠点性の高まり

- ・ 半導体や自動車関連分野を中心に数多くの企業が立地
- ・ 「大空港構想Next Stage」の取り組み

本プロジェクトの
目指す姿

ライフサイエンス分野を中心とした
県内産業の「第3の柱」の創出

2. 10年間の取組みの方向性

【阿蘇くまもと空港周辺地域を拠点とした「知の集積」】

全国から起業家・企業・研究者等が集い、生まれることによる賑わいの創出

3. 基本計画と実施計画の策定

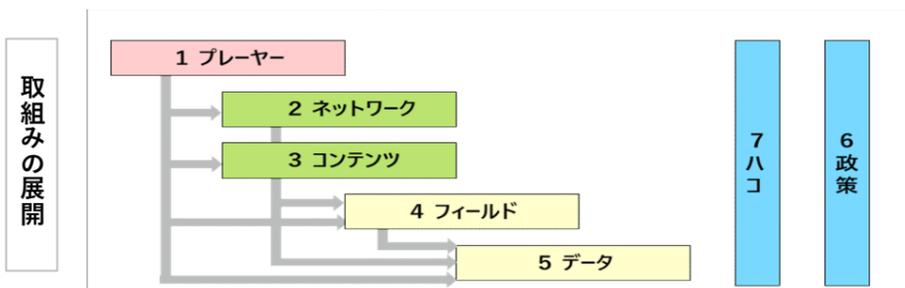
- ・ 県内産業の「第3の柱」の創出に向けた長期にわたる取組みを計画的に推進

【基本計画】：UXプロジェクトの基本的な考え方と重要な取組みを整理

(期間) 令和3年度～令和12年度までの10年間

【実施計画】：基本計画に掲げた取組みを具体化

(期間) 令和3年度～令和6年度までの4年間



4. 具体的な取組みの推進

基本計画（令和3年度～12年度）

1 プレーヤー

UXプロジェクトに参画するプレーヤーを育成、誘致

2 ネットワーク

プレーヤーに対して、企業・研究機関等とつながる機会を提供

3 コンテンツ

各段階に応じて伴走する体制「チーム熊本」の整備、アイデア創出段階から支援する仕組みの構築

4 フィールド

実証実験の場を提供

5 データ

ビジネスに結びつくデータにアクセスできる体制を整備

6 政策

行政としての継続的支援

7 ハコ

プレーヤーの交流や共同実験を行うための施設を提供

実施計画（令和3年度～6年度）

- ・ スローガンの対外発信等による人材の発掘と呼び込み

- ・ 人材育成プラットフォームの構築と運用

- ・ オープンイノベーションプログラムと実証実験機会の提供

- ・ つながる機会とクロスする場を通じた連携関係の構築

- ・ 専門人材（コーディネータ）の配置による連携の促進

- ・ 支援体制「チーム熊本」の組成及び連携したサポートの実施

- ・ 資金供給体制の整備

- ・ アイデア創出のための学生・研究者向けプログラムの提供

- ・ 実証実験フィールドの提供（規制緩和の見直し）

- ・ データ連携基盤の構築

- ・ 県医師会・熊大との連携体制構築

- ・ 県・市町村・企業等が有する各種データとの連携

- ・ 行政側の長期的な支援体制の整備

- ・ 新たな施設（イノベーションハブ、コワーキングエリア、共同実験エリア）の整備

- ・ 各種イベントの開催
- ・ 影響力のある人材等の招聘
- ・ 企業等の誘致
- ・ UXプロジェクト会員登録制度の創設

- ・ ビジネスプロデューサー人材の育成
- ・ データサイエンティスト人材の育成
- ・ 各種人材育成施策との連携

- ・ 企業等の協業に係る支援
- ・ ビジネス創出支援
- ・ 技術の磨き上げ等の支援

- ・ イノベーションハブの整備
- ・ オンラインコミュニティの形成
- ・ 県外、国外とのネットワークの構築

- ・ 専門人材の配置
- ・ 企業・団体との連携による機能の確保

- ・ 支援企業・団体の集積（会員登録制度）
- ・ チーム熊本の組成の推進
- ・ 若手研究者に対する支援
- ・ 資金供給体制の整備

- ・ アイデア提案・実践プログラムの実施
- ・ アイデアやデータの蓄積と活用

- ・ データ連携基盤の構築に係る設計
- ・ ガイドラインの検討

- ・ データ活用手順・手続きの整備
- ・ データの匿名化手続きの検討
- ・ KMNの研究開発等への試行運用

- ・ 健康データを活用したプロジェクト
- ・ 市町村等の健康データとの連携の検討
- ・ 行政データとの連携の検討

- ・ イノベーションハブの整備
- ・ 大学、産業支援機関等との連携
- ・ 既存施設の利用による場の早期提供
- ・ テクノリサーチパークの賑わいの創出